国土交通省港湾局産業港湾課国際企画室　平澤興

107 IAPH（国際港湾協会）

IAPHとは

国際港湾協会（The International Association of Ports and Harbors: IAPH）は、世界の港湾の発展と港湾関係者の交流を目指して1955年に設立された国際NGOです。

2021年1月現在、世界約90カ国にまたがり、主要な港湾管理者等が正会員として155港、また港湾に関わる116の政府機関、公共団体、各種協会、企業、大学、個人等が賛助会員として加入しています。我が国からも、国土交通省港湾局のほか、港湾管理者や国際港湾会社等、26団体が正会員として加入しています。国連機関であるILO、IMO、UNCTAD等から非政府諮問機関として認められており、国際的な課題について全世界の港湾を代表しています。

設立の経緯

第2次世界大戦の終戦から間もない1952年10月、日本港湾協会会長であった松本学氏の提唱により、神戸に世界の主要港関係者を招いて第1回国際港湾会議が開催されました。その後、1955年にロサンゼルスにて第2回会議が開催され、国際港湾協会（IAPH）が正式に設立されました。

第1回国際港湾会議（神戸）

第2回国際港湾会議（ロサンゼルス）

松本氏は、内務省において土木局道路課長、河川課長、港湾課長、そして警保局長等を歴任された方です。戦後の混乱期にあって、我が国の港湾の将来を見据え、また世界の港湾関係者の連帯の重要性を認識し、特筆すべきリーダーシップと交渉力をもって、数多の困難を乗り越えてIAPH創設という偉業を達成されました。

初代IAPH事務総長　松本学氏

松本氏は初代会長に推挙されるも固辞し、裏方としてIAPHを支える事務総長に就任しました。現在も、事務局は東京に置かれており、古市正彦氏が7代目事務総長を務めています。また、阪神国際港湾株式会社の篠原正治氏が、副会長を務めています。

IAPHの活動

IAPHは、「会員相互の協力関係と共通問題の解決にむけての情報共有を強固にすることで世界港湾の利益の増進を図り、また持続可能な港湾の発展を推し進め、さらに港湾が海事産業全般にどう貢献できるかを常に追い求めること」をミッションとし、様々な取り組みを行っています。

2018年からは、国連のSDGsに貢献することを目的に、「世界持続可能な港湾プログラム（WPSP）」を開始。他の国際機関とも協働し、WPSP賞の創設、環境に配慮した船舶の入港に際してインセンティブを与える仕組み（ESI）の運営等、様々な取り組みを進めています。

我が国独自の活動として、港湾関係者が国際港湾協会協力財団及び国際港湾協会日本会議を組織。IAPH活動の支援とともに、日本の会員向けに、国際港湾協会日本セミナーや、海外港湾視察も含めた「国際港湾経営研修」、木本基金による研修生の海外派遣支援事業等を実施しています。また、世界の港湾の最新情報の入手、港湾関係団体との国際交流、情報発信などをサポートしています。

港湾管理者の皆様はじめ、港湾に関係する団体・企業の皆様におかれましては、IAPHへの入会をぜひご検討ください。

詳細は、https://www.kokusaikouwan.jp/ をご覧ください。